

汚染の除去において採用される主な工法の相対的な比較

「汚染の除去」は、対象地の土壌汚染状態を解消することを目的とした手法であり、汚染土壌を全て掘削し、対象地の敷地外の施設で処分等を行う手法（＝掘削除去）と、汚染土壌を掘削することなく、敷地内掘削あるいは地中に汚染土壌があるままの状態では有害物質を抽出または分解することにより汚染状態を解消する手法に大別される。

「汚染の除去」において採用されることが多い主な工法の特徴に関して、相対的な比較を下表に示す。

表1 汚染の除去において採用される主な工法の相対比較表

工法	掘削除去	分級・洗浄 (敷地内掘削)	酸化分解	還元分解	微生物分解
主な浄化対象物質	重金属等、 VOCs	重金属等を 主対象	VOCs による汚染を対象		
浄化確実性					
浄化物質					
汚染濃度					
浄化期間					
各種地盤への適用性				～ 工法による	
表層の汚染 地下水位以上					
深い汚染					
< 総合的評価 >					
汚染が浅い 場合		～			
汚染が深い 場合					

注) 表中では、揮発性有機化合物を VOCs と表記している。

- : 優れている or 最適である
- : 良い or 適している
- : 良くない or あまり適していない